

## 連結財務諸表

### 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当第2四半期 連結会計期末 (平成23年4月30日)	前連結 会計年度末 (平成22年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	6,167,178	7,002,539
固定資産	7,285,089	7,592,253
有形固定資産	4,097,772	4,312,701
無形固定資産	39,865	34,380
投資その他の資産	3,147,451	3,245,171
資産合計	13,452,267	14,594,792
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,878,247	4,002,587
固定負債	2,163,893	2,173,798
負債合計	5,042,140	6,176,386
<b>純資産の部</b>		
株主資本	8,230,079	8,239,996
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	519,252	519,252
利益剰余金	6,921,810	6,931,584
自己株式	△74,109	△73,966
評価・換算差額等	180,046	175,654
その他有価証券評価差額金	189,092	185,415
為替換算調整勘定	△9,045	△9,760
少数株主持分	—	2,755
純資産合計	8,410,126	8,418,406
負債純資産合計	13,452,267	14,594,792

### 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成22年11月1日 至 平成23年4月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日)
売上高	4,218,971	5,468,179
売上原価	3,819,089	5,026,999
売上総利益	399,882	441,180
販売費及び一般管理費	545,797	518,588
営業損失	145,914	77,407
営業外収益	165,722	287,664
営業外費用	11,991	16,667
経常利益	7,817	193,588
特別利益	66,116	188,116
特別損失	411	1,294
税金等調整前四半期純利益	73,521	380,410
法人税等	53,691	174,579
少数株主損益調整前四半期純利益	19,830	—
少数株主利益	—	302
四半期純利益	19,830	205,529

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成22年11月1日 至 平成23年4月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	245,894	754,127
投資活動による キャッシュ・フロー	274,422	396,604
財務活動による キャッシュ・フロー	△641,573	△36,885
現金及び現金同等物に 係る換算差額	714	1,222
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△120,542	1,115,068
現金及び現金同等物の 期首残高	2,175,391	1,571,899
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,054,848	2,686,967

## 会社概況 (平成23年4月30日現在)

### 会社概要

社名：株式会社ミロク  
Miroku Corporation  
所在地：高知県南国市篠原537番地1  
設立：1946(昭和21)年7月5日  
2003(平成15)年5月1日持株会社化  
資本金：863,126千円  
従業員数：495名(連結対象子会社含む)

### 役員

代表取締役社長：弥勒 美彦  
常務取締役：近藤 久視  
取締役：田中 勝久  
取締役：荒井 瑞夫  
取締役：チャールズ・グブラモント  
取締役：堀川 洋幸  
取締役：ジャン・ピエール・ワレマック  
取締役：楠瀬 正広  
常勤監査役：深見 裕夫  
監査役：山本 吾一  
監査役：中澤 啓  
監査役：佐野 靖男

## 株式情報 (平成23年4月30日現在)

### 株式の状況

発行可能株式総数……………50,000,000株  
発行済株式総数……………15,027,209株  
株主数……………1,498名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
エムエルビーエフエス カस्टディー アカウント	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
ミロク共栄会	692	4.6
ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライス ストック フアンド	678	4.5
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
日油株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0

(注)第1順位のエムエルビーエフエス カस्टディー アカウント(名義人)の持株数として記載した1,474千株は、当社筆頭株主であるブローニング・アームズ・カンパニーが実質株主として所有しております。

## 株主メモ

事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで  
基準日：定時株主総会 10月31日  
剰余金の配当 期末 10月31日  
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005  
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(通話料無料)

特別口座管理機関：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先：〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777(通話料無料)

公告方法：電子公告の方法により行います。  
ただし、やむを得ない事由により  
電子公告をすることができない場合は、  
日本経済新聞に掲載します。  
電子公告掲載URL  
http://www.miroku-jp.com/

単元株式数：1,000株

証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行  
株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)  
0120-244-479(本店証券代行部)  
0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ  
http://www.tr.mufig.jp/daikou/



高知県南国市篠原537番地1  
TEL:088-863-3310



このレポートは、環境に配慮し、  
植物油インキを使用しております。

第80期 中間事業レポート  
平成22年11月1日 ▶ 平成23年4月30日



証券コード 7983



四万十川(高知県四万十市)

# TOP MESSAGE

## トップメッセージ

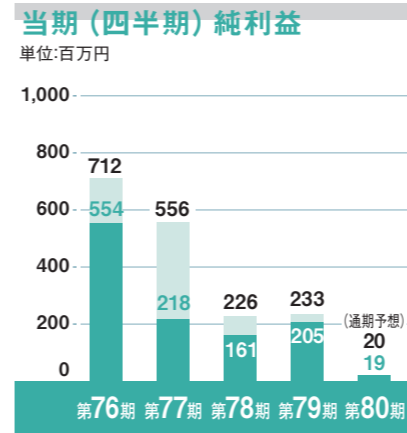
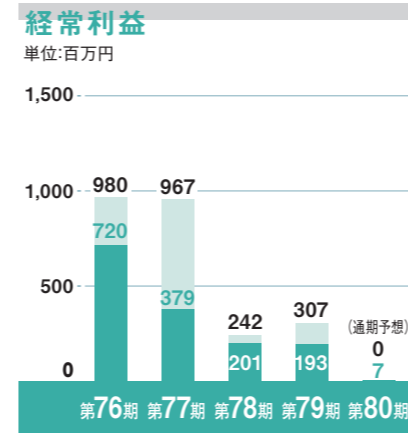
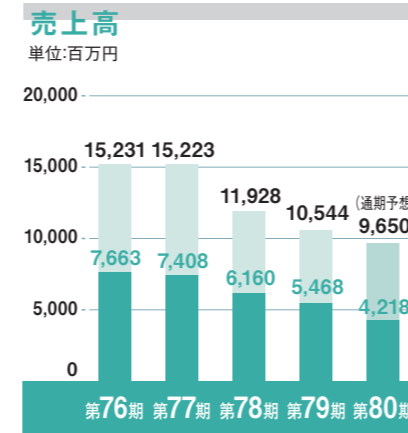
### ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。また、このたびの東日本大震災により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。ここに、第80期（平成22年11月1日から平成23年10月31日まで）の中間事業レポートをお届けいたします。今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

平成23年7月  
代表取締役社長 弥勒 美彦



### ハイライト情報（連結）



### 当第2四半期連結累計期間の概要

#### 円高や低価格指向など厳しさ増大

当第2四半期までの日本経済は、3月11日に発生した東日本大震災の甚大な被害と原発事故に伴う電力の供給制限などにより、景気のは行き先は不透明な状況に陥りました。このような状況のもと、ミロクグループは顧客の期待に応えられる製品づくりを目指し、コストパフォーマンスの高い製品の開発と一層の原価低減に注力。グループ丸となって業績の向上に取り組まれましたが、円高や低

価格指向の高まり等、経済環境悪化による影響を受けて厳しい状況が続いております。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は当初の予想を下回り、4,218百万円（前年同期比22.8%減）となりました。利益面では経費などのコスト削減により予想を上回り、経常利益は7百万円（同96.0%減）、四半期純利益は19百万円（同90.4%減）となりました。

### 戦略と課題

#### 市場に対応した効率的なモノづくりを推進

猟銃事業では、9万丁体制の確立と売上高の確保・増加を目指して、新規事業部による3Dドライ転写技術の銃床への応用、原価改善室を中心とした銃の原価引き下げならびにグループ全体での部品のコストダウンなどに意欲的に取り組みます。工作機械事業では、中国や東南アジアなどの新興国での販売を視野に入れ

た低価格製品の開発や品質管理体制の強化に力を注ぎます。自動車関連事業では、強い企業体質を目指して「市場ニーズに応える企業への変革」をテーマに「不良品ゼロへのチャレンジ」や「50%コストダウンの推進」などを実施。顧客ニーズにマッチした新商品の創出を図ると同時に、利益の確保に努めます。

### 今後の見通し

#### 工作機械と自動車関連に光明

下期もミロクグループを取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況で推移することが予想されます。猟銃事業においては、主力となる米国および欧州市場の景気回復は依然として不透明です。その一方で、工作機械事業においては、新興国向けの設備投資が上向き、業績の持ち直しが期待されます。また、東日本大震災による深刻な影響を

■ 第2四半期累計 ■ 通期

# OPERATING OVERVIEW

## 事業別営業概況

### 猟銃事業



#### 営業概況

主力の米国および欧州市場は、低価格指向が強まり価格競争は一層激化しました。円高の影響もあり大幅に過剰となった流通在庫は、適正水準に近づきつつありますが、一部の機種はまだ過剰在庫を抱えています。このような状況の中、市場規模が大きく、競合メーカーも多いボルトアクションライフルの販売数量は大幅に減少しました。その結果、売上高は2,227百万円、営業損失は120百万円となりました。



### 工作機械事業



#### 営業概況

主要顧客である自動車・金型関連産業は、中国をはじめとするアジア向けの設備投資が次第に増加するなど、緩やかな持ち直しが見られました。主力の機械部門は受注が伸びず売上は減少しましたが、顧客の生産状況の回復に伴ってツール部門および加工部門の売上は増加しました。その結果、売上高は868百万円、営業利益は80百万円となりました。なお、売上高につきましてはセグメント間の内部売上高3百万円を含みます。



### 自動車関連事業



#### 営業概況

自動車業界は、中国やインドでは堅調に推移するなど、持ち直しの兆しが見られました。しかし、東日本大震災の影響により、納品先メーカーの生産が停止。当社の生産ラインも一時停止せざるを得ない状況となり、主力の純木製ステアリングハンドルの生産量は大幅に減少しました。その結果、売上高は1,121百万円、営業利益は9百万円となりました。



※自動車関連事業は、持分法適用関連会社である（株）ミロクテクノウッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法投資利益の増加を通じて、当社連結業績に反映されます。

※その他事業につきましては、売上高は5百万円、営業損失は12百万円となりました。